【学校用】

～北海道のトップアスリートと学ぶ～

English Catch Program

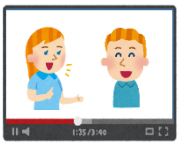
北海道教育庁学校教育局義務教育課

小・中学校においては、外国語教育の充実に向けて、言語活動を行う際の生きたモデルや、実際にコミュニケーションが行われている様子を示すなど視聴覚教材等を活用し、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識した活動を充実させることが求められています。

道教委では、道内の９つのスポーツチームと連携し、外国人選手や日本人選手の協力による英語教育に活用できる映像資料を作成し、義務教育課のＷｅｂページに掲載することとしました。

各学校においては、子どもたちの英語に対する関心を高めるとともに、外国語の授業づくりの工夫が図られるよう、本教材を御活用ください。

映像の概要



- ○　**外国人選手や日本人選手が、それぞれの場面において、英語で自分の考えや気持ちなどを伝えたり、簡単な質問に答えたりしている映像**
- ○　**対象：小学校第５・６学年及び中学校全学年**
- ○　**時間：２～７分**
- ○　**構成：オープニング（自己紹介）～内容（「将来の夢」や「行ってみたい国や地域」など２～３種類）～エンディング（メッセージ）**

授業における活用例

〔１時間目〕

・自己紹介に関する映像を視聴し、内容について分かったことを伝えたり書いたりする。
　※どのような動物やもの・ことが好きかについて注意して聞くように促す。
・好きな動物や好きなもの・ことについて相手に伝える。
・自己紹介に関する映像を再度視聴し、自己紹介で紹介する内容について確認する。
・好きな動物や好きなことを含めて自己紹介し合う。

目的をもって聞くような場面を設定することが大切です。
また、繰り返し聞かせ、内容を推測させるなど、一語一語すべてを理解するのではなく、意味のかたまりとして理解し、内容が分かったという経験をさせることが大切です。

〔２時間目〕

・自己紹介に関する映像を視聴し、内容について分かったことを伝えたり書いたりする。
　※どのようなことが得意かについて注意して聞くように促す。
・得意なことについて相手に伝える。
・自己紹介に関する映像を再度視聴し、自己紹介で紹介する内容について確認する。
・得意なことを含めて自己紹介し合う。

単元または１単位時間の初期段階で言語活動を通して、学習内容として設定されている表現の音声を繰り返し聞いたり話したりするなど、英語の音声に慣れ親しませる活動を展開し、言語の意味や働きを理解させることが大切です。

家庭における活用例

〔学校の授業と連携〕

・学校の授業において、教科書掲載の映像を活用して、上記の学習活動を行った上で、家庭では、学校で学習した内容を基に本補助教材を視聴し、分かったことを書くなどして、次の授業の活動につなげる。

家庭において、ＱＲコード等で映像が視聴できない子どもには、ＤＶＤを配付するなどの配慮をお願いします。